



学校だより

ひびき

令和4年6月30日

7月号

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

この夏の困りごと

校長 大塩 啓介

真夏の暑さが6月中から続いているこの頃です。梅雨にもいつの間にか入っていたような今年、今週月曜日に梅雨明けの発表がありました。梅雨前線が関東よりも北に位置している状況からすると、もう梅雨明けと思っていましたが、観測史上最速の梅雨明けとなりました。例年であれば、夏休みに入ると同時に梅雨明けで、セミが一斉に鳴き始めるところですが、梅雨明けしてもまだセミは土の中でしょうか、鳴き声は聞こえてきません。しかし、今年は早め早めに気候が移り変わっているように感じます。

今年度は、水泳学習を5.6年生だけ、クラスごとで実施しています。外での学習とはいえ、新型コロナウイルス感染が収まっているわけではなく、ガイドラインに沿って児童同士の距離が取れるようにしているためクラスごとに行っています。しかし、水泳学習での事故は命に直結するため、そうした不測の事態に備えるため必ず3人以上の職員が携わっています。当然、普通の学習活動も行っているので、働き方改革が叫ばれている中で業務的には増えることになり、様々な教職員の時間割のやり繰りをした上で実施している状況です。例年、中止も見込んで5回ぐらいの水泳学習を予定していますが、6月中の水泳学習は温度が低いため中止になることも多くあります。そのため、2年間のブランクがある今年は、通常よりも少し遅くスタートいたしました。好天に恵まれ、雨が降らなければ3回ぐらいは入れるかもしれません。来年はこうした状況が少しでも改善されることを願っています。

そうした中、外での体育は気温の高さから、中止になることも多くなってきました。教育委員会から配布されている「WBGT 計」といわれる熱中症の危険度を指数で表す機器ですが、これで計測して31を超えると危険ということで外での活動が中止になります。もちろん、室内、日陰では違いがあるので、体育館でも計測し、31を下回っていればできることもありますが、外での体育は一時間目からできなくなることもあります。

こうした中でも、マスクを外すことに抵抗を感じる、マスクを外して顔を出すのが恥ずかしい、周りが外していないから外せない、という児童の声も聞いています。命にかかわる事なので、職員も積極的に外すように声をかけていますが、着けるも外すも強制することはできませんので、児童の様子を見ながら、水飲みも含めて適宜声掛けをしています。

これから7月に入ります。夜も暑さを感じるようになってきています。睡眠や栄養を十分にとるなど、お身体には十分気をつけていただき、この夏を乗り切ってください。